

平成27年度事業報告書

社会福祉法人 緑友会

平成28年5月27日 理事会承認版

目 次

法人本部	3
理事会	3
法人運営状況	4
大規模修繕補助協議の進行状況	5
職員入退職	7
職員配置状況	8
職員研修（1 外部研修）	9
職員研修（2 内部研修）	11
職員研修（3 内部研修 特養非常勤職員）	13
職員研修（4 ヘルパー内部研修）	14
職員研修（5 研修委員会 総評報告）	15
防災訓練	18
小川ホーム	19
1. 入退所の状況	20
2. 処遇の状況	23
3. 研修生・ボランティアの受け入れと地域福祉	29
4. 各係	30
5. 栄養・給食関係	32
短期入所生活介護	36
小川ホームデイサービスセンター	37
1. 月別実績	38
2. 要介護度・年齢別利用者数	38
3. 移動方法別利用者数	39
4. 地域別利用者数	39
5. 行事	40
小川ホームホームヘルプサービス	41
小川ホーム介護計画センター	44
地域包括支援センター小川ホーム	46

法人本部

○理事会

法人及び各事業運営についての諸議案が審議、決議された。

次数	開催日	出席状況	主な議題
76	平成27年5月 25日(月) 午後5時15分～	理事6名 監事2名	第1号議案 平成26年度 事業報告書(案) 第2号議案 補助金及び高額な取引に関する承認案 第3号議案 平成26年度 収支決算書(案) 第4号議案 振興費及び大規模修繕積立金の積立に関する案 第5号議案 平成26年度 監事監査報告 資産 証明額・資産登記の承認案 第6号議案 平成27年度 処遇改善加算Iの申請 及び 第1回補正予算案 第7号議案 大規模改修の自己資金等の確認案 第8号議案 経理規程の改定案(再改定提案)
77	平成27年12月 4日(金) 午前11時30分 ～	理事6名 監事1名 監事1名 欠席	第1号議案 大規模改修 一般競争入札の参加条件の 決定(案) 第2号議案 大規模改修 一般競争入札予定価格の 決定(案) 第3号議案 特別養護老人ホーム施設整備費 工事 入札 進行管理表について(案)
78	平成28年1月 22日(金) 17時15分～	理事6名 監事2名	第1号議案 大規模改修 一般競争入札の参加条件の 決定(案) 第2号議案 大規模改修 一般競争入札予定価格の 決定(案) 第3号議案 平成28年度業務委託 指名競争入札 実施に関する案 給食サービス提供業務委託契約 洗浄業務付き寝具類の賃貸借契約 建築設備年間保守管理契約 第4号議案 平成27年度第2回補正予算(案) 第5号議案 マイナンバー等取扱規程(案) 第6号議案 個人情報保護規程(案) 第7号議案 大規模改修 内示後の計画変更について ア:平成27年度老人福祉施設整備補助 事業の出来高変更について イ:内示後の計画変更願の提出について
79	平成28年3月 18日(金) 午後5時15分	理事6名 監事2名	第1号議案 補助金交付決定及び高額な出納に関する 承認案 第2号議案 平成28年度業務委託指名競争入札実施 報告・契約に関する案 給食サービス提供業務委託契約 洗浄業務付き寝具類の賃貸借契約 建築設備年間保守管理契約

	つづき		第3号議案 平成28年度 事業計画書(案) 第4号議案 介護予防・日常生活支援総合事業開始に伴う運営規定変更案 第5号議案 平成28年度 収支予算案(社会福祉法人新会計基準による) 第6号議案 役員改選に関する議案 その他の議案 職員の資格取得費用と手当について
80	平成28年3月18日(金) 午後6時25分～	理事6名 監事2名	第1号議案 理事長の選任について ①定款第五条第2項に基づき理事6名による理事長の互選 ②定款第一〇条に基づき理事長の職務代理理事2名を理事長が指名
81	平成28年4月1日(金) 午後5時15分～	理事6名 監事1名 監事1名 欠席	第1号議案 大規模改修 一般競争入札落札者との契約について

○法人理事・監事

平成27年度は二年間の満了期であり、平成28年3月18日(金)の理事会において平成28年3月26日から二年間の任期について予選を行い、全役員が再任となった。また理事長についても互選の結果再選され再任となった。

平成30年3月25日までの二年間の任期の役員は、次の通りの各氏となっている。

理事長 菅野徹夫

理事 市東和子 白石欣彦 関谷栄子 高木好男 増田英男

監事 基太村壽三郎 兒島富士男

○介護保険改正

平成27年4月より介護保険報酬が改正され、特養では8月にも報酬改正となり、利用料、居室負担金の変更や、利用者の収入に応じて2割負担をされる利用者も発生した。このことで8月からの短期入所の利用を控える行動が見られた。特養においてはそれまでの要介護者の入所から、要介護3から5までの方の入所に限定され、これまで待機されていた方でも、入所対象から外れてしまう案件も発生している。

○吸収式冷温水発生機 及び 冷却塔の更新 及び インバータシステムの導入

平成7年建立以来、修繕しながら利用してきた大型空調室外機システムの経年劣化が進み、盛夏にトラブルになる懸念が高まったため、平成26年度中の理事会にて審議して頂き、平成27年5月に標記の機器群について更新と増設の工事を、移行時特別積立金を用いて行った。全電気式へのスイッチ案も検討したが、電気料金の値上げの実態も考慮し、ガス燃焼式の後継機を選択した。但しガスと電気の料金を軽減させる狙いもあり、インバータ(間歇運転制御装置)を増設した結果、概ね4割程度のライフライン料金の軽減を実績とすることができた。

○大規模改修補助協議の進行記録

平成27年 5月25日	理事会（第76回）	大規模改修の自己資金等の確認
平成27年 7月10日	小平市	大規模改修補助協議申請前の了解
平成27年 7月22日	東京都福祉保健局	大規模改修補助協議申請
平成27年 8月11日	東京都職員来所	現地調査・資金調査
平成27年 8月25日	東京都福祉保健局	都指摘により小川ホーム共有部分面積の再計算の後面積変更申請
平成27年 9月 3日	地域住民等	改修実施の広告と説明周り
平成27年10月23日	東京都福祉保健局	改修内示の告知と説明会への招集予告
平成27年11月10日	登庁	補助申請について内示説明会
平成27年11月25日	登庁	内示後書類の初回提出
平成27年12月 4日	理事会（第77回）	一般競争入札の参加条件の決定（案） 一般競争入札予定価格の決定（案） 特別養護老人ホーム施設整備費 工事入札進行管理表について
平成27年12月18日	シルバー新報	入札公示の記事掲載
平成27年12月18日	役員・小平市	入札同席の依頼発送
平成28年 1月 5日	都・小平市・役員	申し込み社不足で不成立の報告
平成28年 1月22日	理事会（第78回）	一般競争入札の参加条件の決定（再案） 一般競争入札予定価格の決定（再案）
平成28年 2月 5日	シルバー新報	入札公示の記事掲載（再広告）
平成28年 2月17日	入札参加希望業者	入札参加申込社 2社で確定
平成28年 2月18日	登庁	入札申込書類の報告と精査
平成28年 2月25日	役員・設計・申込社	入札参加申込社 個別説明会の開催
平成28年 2月26日	入札申込社	入札参加申込社 見積開始
平成28年 3月18日	小平市・役員・申込社	入札（東京都に落札結果電話報告）
平成28年 3月18日	理事会（第79回）	落札報告
平成28年 3月18日	落札者	落札者と契約に関する打合
平成28年 3月23日	登庁	落札報告
（平成28年4月1日）	理事会（第81回）	一般競争入札落札者との契約（案）
（平成28年4月5日）	東京都福祉保健局	議事録複写発送
（平成28年4月11日）	落札者	契約締結

○福祉サービスの第三者評価の受審

平成27年8月3日から10月21日にかけて、入所者への聴き取り調査、職員及び管理者への分析シート調査等を実施した。調査機関は協同組合建設経営センターで、介護サービス情報同様に東京都福祉サービス評価推進機構のホームページに掲載され公表されている。

○協力医療機関と嘱託医師の変更等

平成26年度に引き続き、協力医療機関として「南台病院」と契約し、内科の定期診療は下山克也医師に継続依頼した。また「医療法人社団 千実会」と契約し、後藤雄一医師に定期診察を継続依頼した。内科診療として「小川クリニック」の小川哲史医師に定期診察を新規に依頼した。精神科は「小平駅前クリニック」が転院で「小平仲町クリニック」に名称変更となるも、伊藤敬雄医師と契約を継続している。歯科は「パール歯科」に依頼し訪問歯科診療にて治療を行っている。整形外科は、菅野徹夫理事長の属される島田療育センターはちおうじと契約し、継続して診察を依頼した。

○インフルエンザ・ノロウイルス等の感染対策

インフルエンザの流行に備え、特養利用者及び職員全員を対象に南台病院に委託し、11月11日18日25日の3日間に下山医師の来訪時に予防接種を行った。職員努力の効果もあり平成27年3月末日までに発生はなかった。

またノロウイルス対策として、一年を通しリバルス希釈液他による噴霧・拭き上げの感染予防策の実施を行ってきた結果、発生を抑えることができている。

○パソコンを用いたケアの充実化対策

時代の流れに沿う形で、介護記録の電算化を進め、デイサービスではASPサービスと携帯端末を用い、リアルタイムで記録と利用実績の入力が行えるよう、平成26年6月より介護ソフト会社と打ち合わせを進め、平成27年11月末の段階で実用化となった。特養に関しては、LAN工事は完了し、平成28年度中に電算化できるよう準備を進行している。

しかしながら、LAN接続の主要ハードディスクとパソコンの各一台が、11月5日に悪意あるウイルスに感染し、過去一年間のExcel、Wordのデータが喪失した。これにより更にウイルス防止ソフト（マカフィー）のガードを強化した。

○交換研修会の実施

あきる野市の草花苑と協約を結び、職員の交換研修を平成24年度以降実施しており、本年度も継続して行い、3月8日～5日間に介護員一名の受入を行った。特養では外部の施設職員との接点が少ないことから、有効な機会となり、これによって自施設のサービスの改善において有益となり、今後も交換研修を継続して参りたい。

○自衛消防訓練審査会での入賞

小平消防署の主催する、「平成27年度自衛消防訓練審査会Dコース2号消火栓の部」に、法人の男性職員1隊2名が出場し、優勝を果たした。

○善意銀行 テーブルの寄附申請の採択

東京善意銀行に利用者食事用テーブル2脚の補助申請を行い補助採択され、平成27年11月26日に納品となった。

○訪問介護車輛補助の採択

日本財団の車輛補助事業に申請し、平成27年12月13日補助採択され、平成28年2月5日納車され、同12日理事長、利用代表、地域住民代表が集まり納車式を行った。

○法人開設20周年記念式典の実施

平成7年に開設し20周年を迎えるに当たり、理事長を始め役員、協力医療機関、協力福祉施設、永年ボランティア代表者、利用者代表、利用者家族代表、法人職員が参集し、小規模ではあるが標記の式典を平成28年1月22日に開催した。また、当法人の歴史を振り返り、記念誌を作成し、理事長、歴代施設長、主任以上の幹部から寄稿を頂き、各職員からも熱いメッセージを集め、メッセージ集も掲載した。

○介護予防・日常生活支援総合事業

全国において標記の事業が徐々にスタートしており、小平市では平成28年3月1日から制度の導入となった。小平市では今後要支援者の認定の更新の際に、標記のサービスに移行していくこととなり、また、新規に総合事業対象者となる場合もある。各市町村により移行の政策が異なり、小平市のように個々の要介護認定の際に一年がかりで切り替えを行う市と、東村山市のように年度替わりに全員移行する方式などもあり、料金についても一月単位や回数単価計算などまちまちであり、また介護保険請求に関しても極めて複雑になり、介護保険上の専門職といえども、短期に完璧な把握をすることは困難な状況にあると言える。

○家具の改修

永年使用し傷みの激しい利用者用いすに関して、張替え修理を実施した。一階食堂においては地域包括支援センター事業であるサロン等の実施のために、外来者の利用の機会も発生するようになったこともあり、平成27年度と28年度にかけて概ね80万円を費やしている。

○トイレの改修

家具の修繕同様に、地域包括支援センターのサロンや介護教室等に来訪される利用者が増加し、もとより傷みの多かった便座と水洗について、概ね70万円自動洗浄付の便座へと改修を行った。

法人職員人事（異動・昇格）

生活健康課健康係副主任	前任なし	H27.4.1 昇格：塩野谷 誠
生活健康課健康係副主任	前任なし	H27.4.1 昇格：古川千鶴子

職員入退職（常勤職員）

職 種	入職者	日付	職 種	退職者	日付
看護職員	横山真希 (非常勤から身分変更)	H27.4.1	介護職員	本田礼子 (非常勤に身分変更)	H27.7.31
			介護職員	和田千春	H28.3.31

職員配置状況

平成28年3月31日現在

職 種	介護老人福祉施設 (短期入所を含む)		通所介護		訪問介護	
	基準	定員	基準	定員	基準	定員
施設長	1	1				
事務員		3 [内兼務 1]				
看護職員	3	3 (3)	1 (1)	2(内兼務 2)		
相談員	1	1	1 (1)	2[内兼務 1] (1)		
介護職員	24	22 (18)	6	1[内兼務 1] (12)		
ヘルパー					9	4 (19)
介護支援専門員	1	[兼務 6]				
管理栄養士	1	1				
医師	必要数	(4)				
精神科医師	(1)	(1)				
訓練指導員	1	1 (1)	1	1 (2 (内兼務 2))		
整備員		(8)				
業務員		(4)				
警務員		(6)				
専従運転士				(2)		
計	32 (1)	31 (45) [兼務 7]	9 (2)	3 (17)	9	4 (19)

職 種	居宅介護支援		地域包括支援	
	基準	定員	基準	定員
事務員			(1)	[兼務 1]
看護職員			1	2
相談員			2	2
介護支援専門員	5 (1)	5 (2) [他兼務 1]	2 (4)	2 (2)
計	5 (1)	5 (2) [他兼務 1]	5 (3)	6 (2) [兼務 1]

() は非常勤職員

※基準は介護保険法に照らし、同時に当サービスの利用者数の現況を満たすだけの必要人員を表現している。

職員研修

(1) 外部研修

研修内容	研修主催者	研修者	研修日 (1日目)	その他 (2日目以降)
人を幸せにする福祉・介護の接遇を学ぶ	東京都高齢者福祉施設協議会	安川綾子 高橋利枝	H27.5.14	
排泄ケア実践研修	関西看護出版	池高真一	H27.5.31	
個別機能訓練加算算定について学ぶ	東京都高齢者福祉施設協議会	小宮山恵子	H27.6.5	
在宅での看取りと在宅死の諸問題について	東京都訪問看護ステーション協議会	大橋慧媛	H27.6.12	
第19回北多摩認知症を考える会	北多摩認知症を考える会	上田典子 大橋慧媛 平間亜矢子	H27.6.24	
認知症の医療 介護連携について等	エーザイ株式会社	野本琢也 横山真希 永畑加代子	H27.6.24	
高齢者福祉施設におけるサビスマー研修会	東京都社会福祉協議会	鎌田英子	H27.7.27	H27.8.24
認知症介護研修公開講座	東京都福祉人材センター研修室	進藤麻帆 池澤美幸	H27.7.27	H27.8.24
東京都地域包括支援センター職員研修	東京都福祉保健局高齢社会対策部	横山真希	H27.7.27	H27.7.28
マイナンバー制度の理解と対応	東京都社会福祉協議会	白石欣彦	H27.9.1	
養護者による高齢者虐待対応研修	東京都保健福祉財団	野本琢也	H27.9.2	H27.9.3
家族単位で生活支援を考える	東京都多摩小平保健所	横山真希	H27.9.15	
社会福祉従事者人権研修Ⅱ	東京都福祉保健局	村山大輔	H27.9.16	
介護サービスにおける医療と介護の連携	東京都国民健康保険団体連合会	佐藤実	H27.9.29	
介護サービス事業者支援研修会	東京都国民健康保険団体連合会	横山真希	H27.9.29	
エイズ専門研修	東京都福祉保健局健康安全部	横山真希	H27.10.1	
権利擁護実践研修 社会福祉士	東京都社会福祉士会	中野香美	H27.10.17	H27.10.24
ファシリテーター育成講座	東京都高齢者福祉施設協議会	野島邦義 塩野谷 誠	H27.10.20	H27.11.19 H27.12.14
福祉用具利用のためのアセスメントとプランニング	東京都福祉保健財団	宮永桃子	H27.10.27	

研修内容	研修主催者	研修者	研修日 (1日目)	その他 (2日目以降)
依存症問題を抱えた家族の理解と対応	東京都多摩小平保健所	宮永桃子 加藤佳子	H27. 11. 6	
依存症問題を抱えた家族の理解と対応	東京都多摩小平保健所	横山真希	H27. 11. 6	
北北ブロック生活相談員研修会	東京都社会福祉協議会	高橋利枝	H27. 11. 9	
第1回東京都キャラバンメイト養成研修	東京都社会福祉保健局	横山真希	H27. 11. 17	
介護セミナーin 東村山 希望としての介護	デイサービス宅老所 しぐれ屋	鹿内真由美 大橋慧媛 池田まゆ美 宮永桃子	H27. 11. 18	
介護リーダーのための管理職講座	関西看護出版	池高真一	H27. 12. 5	
パーキンソン病関連疾患在宅療養者のリハビリポイント	東京都多摩小平保健所	上田典子	H27. 12. 15	
東京都地域包括支援センター職員研修	東京都福祉保健財団	出井かおり	H27. 12. 17	H27. 12. 18
介護職員スキルアップ研修	東京都福祉人材センター研修室	松井清美	H28. 1. 7	H28. 1. 8 H28. 1. 14
精神科医師による薬に頼らない認知症講座	警視庁職員互助組合	池田まゆ美	H28. 1. 16	
介護支援専門員専門研修	総合健康推進財団	中野香美	H28. 1. 21	H28. 2. 17 H28. 2. 29
自分の望む医療を受けるために	東京都多摩小平保健所	大橋慧媛 池田まゆ美	H28. 2. 5	
事実を聴き取る面接技法を学ぶ	あい権利擁護支援ネット	中野香美	H27. 2. 14	
見守りサポーター養成研修	小平市地域包括支援センター中央センター	中野香美	H28. 2. 20	
統合失調症との付き合い方	国立・神経医療研修センター	中野香美	H28. 2. 20	
車いすとシーティングの基本と技術	なるほどケア塾	池高真一	H28. 3. 20	
いのちを語る	聖ヨハネホスピスケア研究所	池田まゆ美 大橋慧媛 宮永桃子	H28. 3. 24	
平成27年度キャラバンメイト養成研修	小平市	木上利恵子	H28. 3. 25	

(2) 内部研修

研修内容	講師	研修者	研修日
相互交換研修	在宅サービス各事業職員	吉田英美	H27. 6. 16 H27. 8. 11
認知症ケアの基本的理解と BPSD の対応としての「ユマニチュード」を理解する	山屋恵美子	高橋利枝・安川綾子・鎌田英子・吉田英美・菊池孝明・塩崎佳子・塩野谷誠・小宮山恵子・古川千鶴子・一條裕・武藤光仁・矢村恵美・杉本百合子・内山亜矢子・木上利恵子・吉田つや子・中野香美・上田典子・出井かおり・宮崎由貴・加藤満子・中村敏子・坂田しのぶ・横山真希・佐藤実・松田弥生・平間亜矢子・永畑加代子・大橋慧媛・池田まゆ美・池田千恵子・加藤希・池高真一・大野友紀・廣岡佳子・堀栄子・佐々木雅美・小原奈津子・山岸裕美子・清水理恵・小澤律子・田原みどり・小野静子・野本琢也・松井清美・羽根ルミ子・佐藤留美子・柏木あけみ・高原好子・広田祐子・松野智子・原本敦子・齊藤与志子・豊嶋尚美・増田いづみ・鈴木今日子・中谷智子・森本由紀子・丸山朗美・松橋恵美・加藤桂子・仁科優子・浅井知子	H27. 7. 16 H27. 8. 11
「職員のモチベーションアップ（サービスマインド向上）を考える」～福祉職員の接遇は「プロ意識」を持つこと～	渡邊義昭	古川千鶴子・半谷三千代・高塚義久・石原裕介・塩野谷誠・田倉巳幸・鎌田英子・杉本百合子・井澤優子・川野美紀・矢村恵美・浅井知子・安川綾子・塩崎佳子・相原和典・村山大輔・小宮山恵子・高橋利枝・菊池孝明・武藤光仁・	H27. 10. 8&23
相互交換研修	在宅サービス各事業職員	川野美紀	H27. 10. 12 H27. 11. 10
相互交換研修	特養ショート各事業職員	羽根ルミ子	H27. 10. 13 H27. 11. 17
統合失調症と双極性障害の基本的理解	土川洋子	鎌田英子・佐藤留美子・松野智子・中村敏子・齊藤与志子・豊嶋尚美・原本敦子・高原好子・森本由紀子・広田祐子・加藤満子・丸山朗美・増田いづみ・宮崎由貴・松井清美・坂田しのぶ・横山真希・木上利恵子・出井かおり・松田弥生・山根健司・加藤桂子・池田まゆ美・大橋慧媛・大野友紀・池田千恵子・池高真一・廣岡佳子・田代武二・鹿内真由美・仁科優子・加藤希・佐藤実・上田典子・平間亜矢子・中野香美・小林美穂・永畑加代子	H28. 1. 28 H28. 2. 9
身体拘束にならない体位 ※身体拘束廃止委員会	安川綾子 鎌田英子 田倉巳幸	吉田英美・井澤優子・池沢美幸・石原裕介・本田礼子・武藤光仁・相原和典・塩野谷誠・橋達之・菊池孝明・進藤麻帆・和田千春・古川千鶴子・高塚義久・村山大輔・一條裕・川野美紀・岡田祐子・山田芽美・半谷三千代・梅原竜也・和田康子・中村早苗・鈴木由美子・加納希望・山崎理恵・岡田美希・菅洋子・久住真理・石井和代・板井雅俊・甲さつき・吉川夏・富士原ゆき・篠崎有華・佐藤栄子	H27. 8. 7&8&9 H27. 8. 10&11 H27. 8. 12&13 H27. 8. 20&21 H27. 8. 22 H27. 10. 2

個々に合わせた正ボ ジショニング方法 ※褥瘡予防委員会	鎌田英子 田倉巳幸	橋達之・和田千春・村山大輔・高塚義久・ 川野美紀・井澤優子・一條裕・池沢美幸・ 古川千鶴子・菊池孝明・進藤麻帆・山田芽 美・岡田祐子・相原和典・吉田英美・武藤 光仁・石原裕介・塩野谷誠・中村早苗・石 井和代・梅原竜也・山崎理恵・和田康子・ 本田礼子・板井雅俊・甲さつき・加納希 望・岡田美希・佐藤栄子・菅洋子・半谷三 千代・吉川夏・鈴木由美子・久住真理・富 士原ゆき・篠崎有華	H27. 8. 31 H27. 9. 2&5&6 H27. 9. 11&14 H27. 9. 17 H27. 10. 1
食中毒について ※感染症予防委員会	杉本百合子	菊池孝明・村山大輔・相原和典・鎌田英 子・山田芽美・古川千鶴子・川野美紀・一 條裕・矢村恵美・進藤麻帆・池沢美幸・武 藤光仁・井沢優子・橋達之・小宮山恵子・ 吉田英美・田倉巳幸・和田千春・塩崎佳 子・塩野谷誠	H27. 9. 29&30 H27. 10. 10&11 H27. 10. 15&30
食事場面における職 員の接遇対応マナー ※身体拘束廃止 委員会	鎌田英子 田倉巳幸 杉本百合子 高塚義久 矢村恵美	塩野谷誠・古川千鶴子・村山大輔・川野美 紀・相原和典・菊池孝明・一條裕・池沢美 幸・井澤優子・岡田祐子・塩崎佳子・小宮 山恵子・翁長留美子・佐藤栄子・山崎理 恵・菅洋子・篠崎有華	H27. 11. 30 H27. 12. 29 H28. 2. 24
ノロ・インフル エンザ対応 ※感染症予防委員会	杉本百合子	川野美紀・山田芽美・矢村恵美・古川千鶴 子・石原裕介・吉田英美・塩崎佳子・菊池 孝明・塩野谷誠・高塚義久・安川綾子・橋 達之・小宮山恵子・鎌田英子・田倉巳幸・ 和田千春・進藤麻帆・岡田祐子・井澤優 子・村山大輔	H27. 12. 2&4&7
利用者急変時の対応 研修	野島邦義	武藤光仁・板井雅俊・安川綾子・橋達之・ 吉田英美・田倉巳幸・塩野谷誠・古川千鶴 子・菊池孝明・杉本百合子・山田芽美・一 條裕・村山大輔・和田千春・川野美紀・鎌 田英子	H28. 1. 18&22 H28. 2. 1
口腔ケア研修	パール歯科 医師	鎌田英子・菊池孝明・古川千鶴子・井澤優 子・板井雅俊・安川綾子・武藤光仁・石原 裕介・佐藤栄子・半谷三千代・中村早苗・ 山崎理恵・篠崎有華・塩野谷誠	H28. 2. 1&5 H28. 3. 4
移乗移動介助の職員 の接遇対応マナー ※身体拘束廃止 委員会	鎌田英子 田倉巳幸 杉本百合子 高塚義久 矢村恵美	塩野谷誠・石原裕介・村山大輔・菊池孝 明・一條裕・池沢美幸・進藤麻帆・井澤優 子・塩崎佳子・小宮山恵子	H28. 3. 28

(3) 特養非常勤職員内部研修

※ 本研修はパート介護職員のスキルアップ研修として位置付けており、生活健康課生活係の副主任以上が講師を務め、個別研修計画書に基づき研修を実施しています。

※ 研修種別は次の通りで実施する。

1. 業務中に指導的職員からの指導・助言による技術等の習得
2. 業務中に指導的職員からの集団講義等による技術等の習得
3. 法人の研修委員会の実施する研修会の聴講による倫理等の取得
4. 法人が指定し所有する研修教材の視聴による知識等の習得

※ なお、法人研修・内外部研修は前記 (1) (2) の表に記載しています。

★＝法人研修、●＝内外部研修、▲＝新人研修

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
研修テーマ	① .. ショートステイ利用者のケア体制等	③ .. 機械浴の注意ポイント ② .. 感染症について ① .. 認知症について	② .. 機械浴の注意ポイント ① .. 感染症について	③ .. 認知症ケア ② .. 高齢者虐待 ① .. 夜間の救急処置	① .. 体位交換	① .. 細菌性食中毒について	① .. 水分摂取の必要性	① .. 認師症高齢者の睡眠障害の予防	① .. 口腔ケアの効果	① .. ボディメカニクス	③ .. 夜間巡回について ② .. 体位交換 ① .. ミキサー食について	① .. なぜ身体拘束はいけないの？
浅井知子	①	②	①	②	★	①	①	①	①	①	②	①
半谷三千代	①	③	①	③	①●	①●	①★	①	①	①	①●	①
佐藤栄子	①	②	②	②	①●	①●	①	①	①●	①	①●	①
山崎理恵	①	②	②	②	①●	①●	①	①	①	①	①●	①
菅洋子	①	③	①	②	①●	①●	①	①	①	①	①	①
吉川夏	①	③	①	②	①●	①●	①	①	①●	①	①	①
篠崎有華	①	②	②	②	①●	①●	①	①	①	①	①●	①
梅原竜也	①	①	①	①	①●	①●	①	①	①	①	③	①
板井雅俊	①	①	①	①	①●	①●	①	①	①	①	①●	①
久住真理	①	①	①	①	①●	①●	①	①	①	①	③	①
鈴木由美子	①	①	①	①	①●	①●	①	①	①	①	③	①
中村早苗	①	①	①	①	①●	①●	①	①	①	①	③●	①
甲さつき	①	①	①	①	①●	①●	①	①	①	①	③	①
石井和代	①	①	①	①	①●	①●	①	①	①	①	③	①
加納希望	①	①	①	①	①●	①●	①	①	①	①	③	①
岡田美希	-	-	-	▲	①●	①●	①	①	①	①	③	①
本田礼子	-	-	-	-	①	①●	①	①	①	①	③	①
半谷千恵子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	▲	①	①
和田康子	①	①	①	①	①●	①●	①	①	①	①	-	-
富士原ゆき	①	②	②	②	①●	①●	-	-	-	-	-	-
西真理子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	①	①	-

(4) ヘルパー内部研修

※サービス提供責任者が講師を務め、以下の研修会を開催しています。

※法人研修・外部研修は前記(1)(2)の表に記載しています。

年 月 日	H27						H28	
	4	4	5	6	10	12	1	3
	14	28	26	9	13	8	26	8
研修テーマ	「個人情報」 意識を高める勉強会	ホームヘルパーの 「接遇・マナー」 意識を高める勉強会	高齢者の栄養管理に ついて	苦情解決対応 マニュアル	看護について 終末期の看取り方に ついて	上手なカリウムの 取り方	緊急時の対応について	口腔ケア教室 外来講師… デンタルキュービック訪問 歯科 木村重子氏
講師： サービス提供責任者	松井	羽根	松井	松井	松井	松井	松井	宮崎
中村 敏子	○	○	○	○	○	○	○	○
佐藤 留美子	○	○	○	○	○	○	○	○
柏木 あけみ	○	○	○	○	○	○	○	○
高原 好子	○	○	○	○	○	○	○	○
広田 祐子	○	○	○	○	○	○	○	○
松野 智子	○	○	○	○	○	○	○	○
原本 敦子	○	○	○	○	○	○	○	○
齊藤 与志子	○		○	○	○	○	○	○
上條 悦子	○		○	○		○	○	○
豊嶋 尚美	○	○	○	○	○	○	○	○
増田 美佳			○					
増田 いずみ			○	○	○	○	○	
坂田 しのぶ	○	○	○		○			○
鈴木 今日子	○		○	○	○			○
間所 朝子			○		○	○		○
廣田 公雄		○						
中谷 智子	○	○	○	○	○	○	○	○
森本 由紀子	○	○	○	○	○	○	○	○
丸山 朗美		○	○	○	○	○	○	○
松橋 恵美	○	○	○	○	○	○	○	
加藤 満子	○	○	○	○	○		○	○
加納 絵里	○		○					
大貫 実穂		○	○					

(5) 研修委員会 総評報告

平成27年度

研修委員会 総評報告

〈総括〉

今年度の研修は、認知症ケアに偏る事なく、法人の研修課題を全3回に渡り、学べる機会を作れ、職員の研修報告から見ても、概ね研修の意図や目的が伝わったと観察できる。各回で行った研修の報告は以下に記載する。

法人全体で行う研修において、課題も見えてきた様に思う。研修の参加人数が職員全体の半数程度に留まってしまっている事である。各部署から委員を出し、部署ごとの課題において、共通に共有しなければならない課題について、法人全体の課題として挙げている。しかし、その課題について全体で研修を開催しようとする、職種によっては、全てにあてはまる内容ではない為、参加意欲が落ちてしまう傾向がある。また、部署の性質にも依るところもあり、チームケアが中心になっている部署と、個人で接する機会が多い部署では、意欲と言う面にて格差が生じている様に思う。

参加意欲をもって研修に参加してもらう為には、どのようにしていけば良いのか。研修委員の意図としては、変則勤務の中でも参加しやすい様に、同じ課題を日程や曜日を変えて2回実施している。特に、研修に参加しにくい環境を考慮して、講師に施設まで来て頂く研修を行うようにしている。

研修会は職種職域の垣根を越えて各部署の職員が集まる場でもあり、考え方や意見の違いがあることにより、少なからず「学び」や「気づき」はあると思う。何よりも、同じ施設で働く者としてベースにしておかなければならない知識や技術は必要であるので、法人全体の研修の機会を設けていく事は重要だと感じている。

勿論、各部署においてのOJTやOFF-JTは日々業務内で実施すべきで、尚且つ専門的な課題の探求については、部署ごとでの研修も重要である。法人全体と部署ごとの研修とを両輪で行っていく事が、法人の人材育成につながり、組織を維持発展させていく上で必要であると考えている。

先日、職員一人ひとりが学びやすく参加しやすい研修とする為にも、どのようにしていくべきなのか、職員会議でも問いかけてみた。すぐには答えが出なかったが、部署ごとに研修ニーズを確認していく必要もあるのでないかと考えている。

職員、個別に声をかけて参加を促していくのも一つの方法ではないかと考える。そのためには集まり易い環境を作り、意識を高め、職員一人ひとりの質の向上が図れる様にしていきたいと考えている。

今年度の研修内容の詳細（交流研修を含む）は以下の通りである。

【外部講師を招いたOFF-JT研修】

● 第一回 法人研修

テーマ：認知症ケアの基本の理解とBPSDの対応として

～「ユマニチュード」を理解する～

日程：平成27年 7月16日（木）

平成27年 8月11日(火)

時間：18時～20時

講師：宇都宮短期大学 人間福祉学科

介護福祉専攻 准教授 山屋 恵美子 先生

参加者：計63名

研修実施報告

本研修では、職員一人ひとりの援助の幅を広げ資質向上を目的に、新しい認知症ケアの手法として注目を集めている「ユマニチュード」について、コミュニケーションの4つの柱（見る・話しかける・触れる・立つ）を中心に基礎的な考え方を学ぶことができた。

従来の認知症ケアは“できないこと補う”援助の考え方であったが、今は“できること”に目を向けていく考え方が主流になりつつある。パーソンセンタードケアやバリデーション等その人を中心にした援助は、利用者に“快”を感じてもらふ援助の一つであり、介護者側は常に心しておくべき視点である。

講義の中で「認知症になっても一つひとつの行動には意味があり、感情は深く残る。」という言葉や介護者側が“演じる”ことの大切さを先生の体験談を交えた講義は、自己のケアを振り返る良いきっかけになった。“嘘”＝介護者中心にならないように、相手を“不快”にさせないためにも“本人理解の大切さ（その人らしさ）”を改めて再認識できた研修であった。

● 第二回 法人研修

テーマ：「職員のモチベーションアップ（サービスマインド向上）を考える」

～福祉職員の接遇は「プロ意識」を持つこと～

日程：平成27年10月 8日(木)

平成27年10月23日(金)

時間：18時～20時

講師：東京YMCA医療福祉専門学校 就職指導室長 渡邊義昭先生

参加者：計20名

研修実施報告

サービスという観点から、効用や満足などを提供する形のない財について、我々のサービスを振り返ることができた良い機会になった。研修の中で疑似体験（客の目線での意見交換）をすることにより、サービスの良し悪しは利用する側にあるという事が再認識できた。

研修の中で言葉の受け手の感覚（個々の想定時間）の違いや言葉の曖昧さ、伝える難しさなど、言葉の一つひとつまで気を配る必要がある。

またマニュアル通りのサービスは最低限基準であるということも、深く勉強になった。勿論、マニュアルは必要であるがそれだけでは、顧客満足には繋がっていかない。顧客の満足を得るためには、その人の価値観をいかにサービス提供する者が理解し、個々にオリ

ジナル（演技等）なサービスを提供できるようにするかが重要であり、オリジナリティーにこそサービスの質があるのだと思う。

我々の仕事は利用者あってこそその仕事。人を扱うプロとして接遇についても意識していく必要がある研修であった。

● 第三回 法人研修

テーマ：統合失調症と双極性障害の基本的理解

日 程：平成28年1月28日（木）

平成28年2月 9日（火）

時 間：18時～20時

講 師：白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科

教授 専攻分野 保健学 土川洋子先生

参加者：38名

研修実施報告

統合失調症だけでなく、様々な精神科疾患（気分障害、不安障害、恐怖症、アルコール障害、認知障害等）の概要説明後に先生の体験を基にした事例において、具体的に説明があった。これが、現場にいる職員からは、大変好評であった。本人の気持ち、落ち込みや怒りなどに対しては、ニュートラルの状態に対応する事（死にたい言動に対しても、否定せず、支援者の気持ちを開示するようにする）。や統合失調症と認知症の方への対応の違い等も参考になったとの意見も多くあった。

具体的な対応方法や先生の体験した事例が大変勉強になったとの声が多かった。

事前に、自身の聞きたい事や普段のケースの中で対応に困っている事について、全職員に対しアンケートをとり、まとめたものを講義の中で反映して頂けるようにした事も、より深く聞こうとする意識が起こり、相乗効果が生まれ良い研修が行えた。

《法人内 職員交流研修》

【研修者】

- ・ 吉田英美（施設職員）
- ・ 川野美紀（施設職員）
- ・ 羽根ルミ子（ヘルプ職員）

【実施機関】

平成27年 6月16日・ 8月11日
平成27年10月12日・11月10日
平成27年10月13日・11月17日

※実施報告については、各職員研修報告書参照

《他法人 交流研修》

【研修者】 岸野隼士（草花苑職員）

- ・ 草花苑→小川ホーム 平成28年3月8日～14日

※今年度は当施設からの派遣はありません

以上のことを報告し、今年度研修報告とする。

(5) 防災訓練

実施日	訓練内容	参加者
平成27年7月29日 14時20分 から 15時00分 まで	26平予第164号通達に基づく夜間想定総合訓練 ①特養では、夜勤者のみの時間帯を想定し、初期消火を迅速に行い、利用者の誘導及び布担架救護も行った。正確に職員の初期行動が行えるよう、利用者への避難の呼びかけ、館内放送、館内誘導ルートを重点に訓練を行った。消火設備・防火扉・自動火災通報装置・スプリンクラー設備の構造と取扱い方法を反復学習し、有事に備え消火栓で実放水訓練を実施した。 ②デイサービスでは日中を想定し、利用者の安全誘導を行うとともに点呼を実施した。車いす利用者と歩行者の、移動行動が交差しないよう留意し実施した。	防火管理責任者 施設長 生活健康課長 を含む 施設職員 計29名 利用者(特養)18名 (デイ)26名
平成26年10月22日	停電想定発電訓練 ①電気設備点検日に実際に外部電源の喪失の中で、発電機を運転し発電及び灯光、医療機器、電話交換主機への送電訓練を実施した。 ②あえて事前準備をしない中で、機器材の保存場所や取扱いに手慣れた職員により訓練を行った。移動型発電機を使用して約1時間で仮設通電可能となった。	防火管理責任者 他5名
平成27年11月13日 14時00分 から 15時30分 まで	「小平消防署における社会福祉法人等に対する防火安全対策講習会」に参加した。 ①社会福祉法人における発災研修 ②自火報の適切な活用研修 ③救急事案発生時の対応研修	防火管理責任者1名
平成28年3月16日 14時00分 から 15時30分 まで	夜間想定総合訓練 ①特養では夜勤時間帯を想定し、初期対応のルーチンの中で迅速に行動し、利用者の誘導及び布担架救護、周囲にある機器を活用して仮設担架の設営方法の訓練を行った。特に直近に入職者に重きを置き、避難誘導・防火設備取扱い・初期消火行動を訓練し、防火防災活動等の日常から行えるように訓練を実施した。有事に備え機材取扱いができる様、消火栓で実放水訓練、ライフタワーの活用体験も実施した。 ②デイサービスにあっては日中を想定し、落下物に注意をしながら、利用者のADLに合わせ安全誘導を行い、点呼を実施した。車いす利用者には避難介助を行った。	防火管理責任者 施設長 を含む 施設職員 計27名 利用者(特養)15名 (デイ)27名

指定介護老人福祉施設 小川ホーム 事業報告

運営概況

当事業所において、今年度の事業目標は「入所稼働率98%以上確保」として設定したが、約2%近く目標に届かなかった。その主な原因としては平成27年度の介護保険改定の影響が大きい。

当事業においては入所対象者が要介護3～5に限定された結果、入所者の重度虚弱化による入所期間の逡減（入院の長期化、入所期間の短期化等）が空床を現じさせた。事実、入院者数や期間、更には施設入退所者数及び入所後一年以内の退所者数は、昨年より10%前後上回っている。

しかし稼働率だけを見ても昨年より0.41%向上している。これは昨年の課題でもあった入所手続きの難渋や入院先医療機関との連携、長期入院者の見極め等が、相談係を中心とした入所検討会議を通して円滑に行えた結果である。今後、特別養護老人ホームは重介護者への対応の他、認知症ケアや看取りケアの充実等、様々な機能充実が求められており、先を考えた体制構築が重要と考える。

この他、今年度の主な取り組みとしては『利用者チームで支える』を目的に、職員のグループ化を押し進めてきた。近年では利用者ニーズの多様化や介護人材不足といった状況から、従来の利用者担当制度では早期対応が困難になりつつある。そのため、より多くの職員で利用者を担当することにより、利用者のQOLの向上に繋げるよう努めてきた。グループ化を導入した上半期では、新体制に戸惑う職員もいたが徐々に職員間で活発な意見交換ができ、利用者の生活についてより深く考える事ができた。またリーダー職員を配置することにより、組織を意識する他、職員の資質向上にも繋がっていることは喜ばしい結果といえる。

次年度は更に職員一人ひとりが入所者のためにできるを考え、個々が役割と主体性を持ちながら自身のスキルを磨き続けるとともに、利用者に還元できるように努めていく。

以上、今年度の事業報告と致したい。

1. 入所者の状況

(1) 月別入所実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	74	76	73	75	71	72	74
延べ人数	2,179	2,223	2,090	2,151	2,113	2,000	2,176
1日当り	72.6	71.7	69.7	69.4	68.2	66.7	70.2
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※26年度
件数	75	77	75	75	76	893	885
延べ人数	2,115	2,219	2,174	2,072	2,241	25,753	25,674
1日当り	70.5	71.6	70.1	71.4	72.3	70.4	70.3

＝以下統計資料は平成28年3月31日現在の入所者を対象＝

＊長期入院者が常に発生するため先行入所しており、2名増で統計しています。

(2) 介護保険者（市・区）別入所者

	措置制度からの継続		介護保険制度後の入所		計
	男性	女性	男性	女性	
小平市	1	0	13	58	72
他市区	0	0	1	2	3
計	1	0	14	60	75

(3) 入所理由

	男性		女性		計	
	主たる理由	従たる理由	主たる理由	従たる理由	主たる理由	従たる理由
身体的	2	2	11	5	13	7
精神的	5	0	21	20	26	20
経済的	2	4	3	2	5	6
家庭的	6	8	23	31	29	39
住宅的	0	0	2	2	2	2
その他	0	1	0	0	0	1
計	15	15	60	60	75	75

(4) 入所前の状況

入所前の状況	男性	女性	計
措置継続（小川ホーム入所継続）	1	1	2
病院から入所（介護保険以降）	2	7	9
自宅から入所（介護保険以降）	2	34	36
老人保健施設から入所（介護保険以降）	6	11	17
その他から入所（介護保険以降）	4	5	9
計	15	60	75

(5) 退所理由

理由	男性	女性	計
家族引取り	0	0	0
長期入院	2	4	6
施設内死亡	0	3	3
入院後死亡	1	10	11
その他	0	1	1
計	3	18	21

(6) 生活福祉受給状況

種別	男性	女性	計
全面生活保護受給	0	0	0
医療費単独給付受給	3	6	9
計	3	6	9

(7) 要介護度等の状況

a. 要介護度の内訳

	措置制度継続		介護保険後入所		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
要介護1	0	0	0	3	0	3
要介護2	0	0	1	9	1	9
要介護3	1	0	5	16	6	16
要介護4	0	0	2	22	2	22
要介護5	0	0	6	10	6	10
計	1	0	14	60	15	60
介護度平均	3.00	0.00	2.14	3.45	3.87	3.45
総員介護度平均	3.53					
介護度4・5の占める割合	53.33%					

b. 障害高齢者の日常生活自立度

障害自立度	状況	男性	女性	計
J1	生活自立	0	0	0
J2		0	1	1
A1	準寝たきり	3	22	25
A2		3	12	15
B1	寝たきり	2	7	9
B2		3	13	16
C1		3	1	4
C2		1	4	5
計		15	60	75

c. 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症自立度	男性	女性	計
自立	0	2	2
I	1	0	1
II a	1	1	2
II b	4	13	17
III a	4	17	21
III b	1	15	16
IV	3	8	11
M	1	4	5
計	15	60	75

(8) 障害者手帳取得状況

種別	人数
1種1級	2
1種2級	1
その他の障害	5
手帳なし	67
計	75

(9) 年齢構成

年齢	男性	女性	計
65歳未満	1	0	1
65～69	0	0	0
70～74	2	0	2
75～79	3	4	7
80～84	2	9	11
85～89	4	21	25
90～94	1	18	19
95以上	2	8	10
計	15	60	75
平均年齢	81.9	88.6	87.3

2. 処遇の状況

【日常生活援助】

(1) 排泄 プライバシーの保全、尊厳を損なわない配慮をしながら援助

項目	日中			夜間		
	男	女	計	男	女	計
自立	1	9	10	1	9	10
トイレ誘導	0	9	9	0	9	9
ポータブル介助	0	0	0	0	10	10
尿・便器介助	9	31	40	2	6	8
オムツ	4	10	14	11	25	36
その他	1	1	2	1	1	2
計	15	60	75	15	60	75

さりげなく、暖かく、しかも注意深くプライバシーを守ることがを重視し、個々にあった援助を行っている。日々の対応で尿、便意がある方をケースミーティングに取り上げ、自立へ移行するように、職員の意思統一を図り努めている。また、コストダウンも考え、数社の紙おむつサンプルを取り寄せ、品質と価格の検討も行いました。今後も常に良い方法を考慮していきたい。

(2) 更衣 残存機能と清潔保持に努めている。

項目	男	女	計
自立	2	4	6
一部介助	6	40	46
全介助	7	16	23
計	15	60	75

一部介助 衣類を準備し障害の程度に応じて介助する方

全介助 疾患により自ら行えない方

(3) 洗面

項目	男	女	計
自立	0	6	6
一部介助	4	13	17
全介助	11	41	52
計	15	60	75

一部介助 洗面所に誘導し、タオルで拭ける方（声掛けを含む）

全介助 タオルにて介助

(4) 口腔ケア 口腔清拭保持と状態観察

項目		男	女	計
自立		4	6	10
要 介 助	声かけ	1	9	10
	うがい	1	3	4
	義歯	6	24	30
	綿棒	0	0	0
	歯磨	3	15	18
	コットン	0	3	3
計		15	60	75

声かけ 声かけして歯ブラシに歯磨き粉をつけて促す

洗 口 歯のない方はシンリング（すすぎ、うがい）を実施

義 歯 職員が歯ブラシで洗浄，うがい介助，夜間はポリデント洗浄

綿 棒 歯ぐきの弱い方，歯ブラシを痛がる方

歯 磨 歯のある方で一部介助が必要な方

ガーゼ ガーゼにて洗浄

(5) 入浴 清潔保持とともに全身の状態観察を行い、心理的に満たされた入浴を楽しんでいただけるよう実施している。

項目		男	女	計
自立		0	1	1
介 助	一部介助	0	11	11
	全介助	11	40	51
	清拭	0	1	1
	機械浴（ストレッチャー）	4	7	11
計		15	60	75

一部介助 洗う意欲はあるが不十分な方

全介助 疾患により不十分な方

（一部介助・全介助ともリフト浴利用者を含む）

清潔保持と心身のリラックスのため、月～土曜日の入浴日を設定して、利用者1名に対し週2回の入浴を実施している。入浴チェック表に基づき状況を把握し、ADLに合わせた入浴を実施し、個々の好みを尊重し、時間設定した対応をしてくている。

- (6) いわゆる問題行動 安全確認のもとにできる限り規制せず、自由を尊重し変化の観察を行っている。

項 目	男	女	計
徘徊	1	3	4
異食	3	2	5
暴力	2	3	5
暴言・大声	3	13	16
帰宅願望	2	13	15
不潔行為	3	5	8
訴え	3	8	11
収集	2	7	9
自傷行為	1	0	1
拒絶	0	2	2
夜間せん妄	0	3	3
計	20	59	79

(上記表では重複行動含む)

当ホームにおいては、「障害は個性」と捉え、日常生活介護にあたる際は「個性」と受けとめできる限り自由を尊重し、個人の流れに合わせた対応を行っている。しかし、声なき声をどう察知するかを今後の課題として行きたい。

- (7) 食事 暖かい雰囲気できゅっくり食べられるよう配慮し提供している。

項 目	男	女	計
自立	5	23	28
一部介助	6	28	34
全介助	4	7	11
経管栄養等	0	2	2
計	15	60	75

一部介助 スプーンや手づかみで口に運ぶが殆どこぼしてしまう方。

声かけして、口元にスプーンを持っていき、口をあけてもらう方。

全介助 食べる動作を忘れるなど、動作ができない方。

食事は健康を維持するための栄養、毎日の活力のエネルギー源です。また何よりも日常生活の楽しみのひとつとなっています。その人に合った食事、その人の好む食事を目標にしてきざみ食や、ミキサー食などの加工をする他、食器などの工夫も行っている。「セレクトの日」で、好みのメニューを選ぶなどして、行事などで変化のある食事を提供しています。又、厚生労働省が定める、管理栄養士の配置、適時適温及び食事時間等の基準を満たして提供している。

なお、「行事食メニュー」「食糧構成基準量と摂取量」は別記を参照。

(8) 移動・誘導 残存機能を活用し、個々に合った介助を行っている。

項目		男	女	計
自立	歩行	1	5	6
	シルバーカー歩行器	2	7	9
	車椅子	2	7	9
要 介 助	誘導	0	2	2
	誘導(杖)	0	3	3
	車椅子(一部介助)	4	21	25
	車椅子(全介助)	4	14	18
	歩行介助	2	1	3
計		15	60	75

自立歩行 声かけのみで目的地へ行ける

誘導 声かけし、職員と一緒に目的地まで行ける

車椅子一部介助 移動のみの介助で、声かけで目的地まで行ける

車椅子全介助 移動し、職員と一緒に目的地まで介助

【健康状況】

(1) 定期診察状況 ※診察のみ(診察処方)とで分けてカウントしている。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
内科	74 (134)	63 (111)	68 (124)	67 (130)	70 (94)	66 (104)	79 (119)
整形外科	14 (14)	15 (15)	16 (16)	19 (16)	16 (13)	12 (12)	16 (13)
精神科	22 (18)	20 (18)	18 (18)	20 (17)	18 (17)	22 (17)	27 (22)
項目	11月	12月	1月	2月	3月	合計	27年度 総数
内科	72 (115)	71 (104)	69 (119)	57 (95)	75 (129)	831 (1378)	2209
整形外科	17 (15)	16 (14)	14 (12)	12 (11)	16 (12)	183 (163)	346
精神科	24 (20)	26 (24)	28 (23)	28 (23)	28 (23)	281 (240)	521

(2) 健康診断状況とインフルエンザ予防接種・肺炎球菌ワクチン接種

※定期健康診断は誕生月に1回実施

※インフルエンザ予防接種は、利用者全員に希望を伺う(入院中接種者除く)。希望者には南台病院下山医師による接種を実施。

季節型インフルエンザ接種者 73名

肺炎球菌ワクチン接種者 8名

(3) 外来受診状況

診療科	内科		外科		整形外科		皮膚科		眼科	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	31	171	0	2	0	78	16	51	2	18
診療科	耳鼻科		脳神経外科		泌尿器科		精神科		救急	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	0	8	5	10	8	1	0	1	1	12
診療科	形成外科		形成外科		緩和ケア		その他			
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	0	0	0	0	0	0	0	3		

(4) 受診先医療機関(外部往診を含む)

医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数
南台病院	272	一橋病院	15	東大和病院	21	公立昭和病院	7
パール歯科 (往診)	547	多摩総合医療 センター	7	西東京中央 総合病院	7	東大和セントラ ルククリニック	1
緑風荘病院	31	浅谷眼科	12	久米川病院	2	西武中央病院	2
戸島整形外科 クリニック	1	ながしま脳神 経・頭痛クリニック	4	多摩北部医療 センター	2		
あかしあ脳外科	10	石橋歯科	2	鈴木眼科	2	計 945 件	

(5) 入院期間

日数	0~7	8~14	15~30	31~90	90~	合計
男	1	2	4	2	0	9
女	6	3	16	13	2	40
計	7	5	20	15	2	49

(6) 入院患者病名

肺炎（13人）、誤嚥性肺炎（6人）、心不全（5人）、脱水（5人）、
精査目的（5人）、蜂窩織炎（2人）、急性腎不全、尿路感染、腸閉塞、呼吸不全、
腎盂炎、急性腎盂腎炎、尿管結石、水腎症、貧血、痙攣、脳梗塞、白内障、胆嚢炎、
高血糖症、足趾切断、右上腕骨折、左大腿部頸部骨折、左転子部骨折、右膝顆上部骨折

【行事】

(1) 実施行事

実施月日	行事名	内容	実施場所
4月7日	お花見	職員手作りの桜の木をフロアに装飾し、その下でアルコールやおつまみ、カラオケ等の宴会を行う。	ホーム内
5月4～6日	菖蒲湯	浴槽に菖蒲を浮かべ日本古来の風習を楽しむ。	ホーム内
5月10日	母の日	カーネーションと一緒に記念撮影し、利用者を御祝いする。	ホーム内
5月15日	ドライブ	野外に出て植物園の季節の花々を楽しむ。	薬用植物園
5月31日	就前入浴	一日の疲れを寝る前のお風呂で解消する習慣を、利用者の方々に再び味わっていただき、良質の睡眠を提供する。	ホーム内
6月21日	運動会	御家族と共に体を動かし勝敗を競い合う。	ホーム内
6月28日	父の日	お酒や軽食、カラオケを楽しみながら御祝いする。	ホーム内
7月1～7日	七夕	笹に願を込めて短冊を飾る。	ホーム内
7月13～16日	盆供養	祭壇を飾り、迎え火・送り火を焚き供養する。	ホーム内
7月19・26日	DVD鑑賞	夏の風物詩の花火をスクリーンに写し、迫力を味わう。	ホーム内
8月20日	ビアガーデン (夏祭り)	夏の暑さを吹き飛ばす行事として屋上に数々の屋台を出店し、御家族と共に楽しむ。	ホーム屋上
9月10日	ほのぼの館祭り	地域の祭りに参加し、地域交流を図る。	ほのぼの館
9月20日	敬老会	敬老の日をセレモニーや祝い膳などでお祝いする。	ホーム内
9月27日	葡萄狩り	試食して気に入った葡萄を収穫し、食を楽しむ。	東村山ぶどう園
10月18日	芋掘り	秋が旬のさつま芋を収穫し、食を楽しむ。	サニー農園
10月25日	紅葉狩り	秋晴れの日を外気に触れ、移りゆく季節を感じてもらう。	狭山公園
11月22日	秋刀魚祭り	秋が旬の秋刀魚を味わう。	ホーム屋上
12月21～23日	ゆず湯	冬至にゆず湯に入り、健康を願う。	ホーム内
12月6日	音楽祭 in 小平	音楽で繋がりを深め、楽しい街作りに参画する。	中央公民館
12月20日	クリスマス 年忘れ会	無事に一年を終え、御家族と共に宴会を楽しむ。	ホーム内
12月25日	餅つき	年末恒例の行事として、餅つきの実演を利用者と共に行う。	ホーム駐車場
1月1日	新年祝賀会	元旦をおせち料理で祝い、羽子板等の正月遊びを楽しむ。	ホーム内
1月2日	初釜	茶を嗜みながら新しい年を祝う。	ホーム内
1月10・17日	初詣	年の初めに一年の健康を祈願する。	八坂神社

2月3日	節分	職員が鬼に扮して豆まきで福を呼ぶ。	ホーム内
2月14日	ホームバー	昔のバーを思わせる雰囲気作りをし、お好みのお酒やおつまみで、ほろ酔い気分を味わう。	ホーム内
2月12・16日	外食	好きな食事を通して気分転換を図る。	とんでん ガスト
3月14日	フルート演奏会	優雅な音色を楽しむ	ホーム内

(2) 定例行事

- 誕生会 利用者の要望を伺い個別に誕生会を実施している。
- 利用者懇談会 毎月利用者の意見や要望を伺うと共に連絡の場として実施している。
- ホーム喫茶 ボランティアにより実施し家族や地域の方と親睦を深めている。利用者に喜ばれ、多くの地域の方が利用している。
- クラブ活動 書道・華道・料理を実施し、ボランティアによるアロマハンドトリートメント・リフレクソロジー・ハーモニカ・朗読の会・お茶の会・各種楽器演奏を実施している。多くのボランティアのお力添えで行うことができた。
- 理容・美容 毎月理容1回、美容2回地域の理容師により実施している。
- 嗜好品購入 生活協同組合「コープみらい」のカタログから、お菓子などの嗜好品を利用者が選び、配達を受けている。

【日用品支給状況】

日常生活に必要な日用品を支給しました。前年度のように定期的に支給するのではなく、必要に応じて、支給を行っている。

日用品支給品目：ティッシュ・歯ブラシ・ウェットティッシュ・歯磨き粉・ポリデント・シャンプー・ボディソープ・洗顔ウォーム 他 各種A・B・Cセット

3. 研修生・ボランティアの受け入れと地域福祉

(1) 研修生の受け入れ

学校名	日数	延べ人数	研修（実習）目的
武蔵野美術大学	7	126	教員実習に伴う介護体験
白梅学園短期大学	55	78	介護福祉士取得実習
東京医療秘書福祉専門学校	24	24	介護福祉士取得実習
日商簿記三鷹福祉専門学校	43	86	介護福祉士取得実習
昭和の森看護学校	8	36	看護実習
羽村特別支援学校	6	12	就労体験
東大和市立第三中学校	1	4	体験学習
小平市立第二中学校	4	16	体験学習
三菱UFJ銀行	2	8	体験学習

(2) ボランティアの受け入れ状況

グループ名	内容
百合の会	衣類・タオルたたみ・話し相手・行事など
グループ宙	衣類・タオルたたみ・散歩・行事など
すずめの会	紙芝居・指人形・読み聴かせなど
あじさいの会	話し相手（第2火）
愛子会	キーボードを演奏し、テンポの良い振付で、懐メロや唱歌を歌って下さる。（年3～4回実施）
個人	ホーム喫茶・クラブ活動・話し相手・おやつ食事介助・そうじ 尺八演奏・歌・ハーモニカ・理容・美容・買い物・お茶・絵手紙・書道・華道・車椅子修理等

施設の状況を説明し理解を求め、日常の業務を直接的、間接的に手伝って頂き大きな力になっている。積極的にボランティアを受け入れることで利用者の生活が拡大している。

(3) 地域福祉

学校名	内容
たかの台幼稚園	年三回、園児達が来園し歌や手遊びを披露し交流をする。
小平市立十三小学校	七月頃に民生委員の方と学校に訪問し、小学生とふれあいながら給食を頂き交流する。
二葉むさしヶ丘学園	施設行事の敬老会を通して園児の演技やプレゼントの交換等を行い交流する。また法人バザーや餅つきにも参加される。
ほのぼの館	西部ボランティアコーナー主催の作品展示会に利用者の作品を出展し、展示会には作品を鑑賞して地域の方々と交流を図る。

福祉サービスを必要とする人たちが地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化に限らずあらゆる分野の活動に参加する機会を得ることができるよう努めている。

4. 各係

(1) 排泄係

日々の情報収集や排泄表の結果をもとに利用者の状況に合った排泄ケアを実施することができた。排泄用具の見直しに加え、トイレ等の環境整備をすることで、オムツ類の消費削減にも効果があった。今後も利用者の負担の少ない援助提供やオムツの無駄を最小限にするよう取り組み、更には排泄ケアに関する内部研修の実施を行い、個々の技術向上を図る。

(2) 入浴係

個々の利用者の身体状況、介護・看護双方のスタッフが協力し、心身共に快適な入浴が提供できるよう取り組んできた。次年度も利用者の身体状況に合わせ適時入浴方法や一人ひとりの入浴時間に余裕をもって、楽しみや気分転換ができるよう努める。

(3) 食事係

他職種との連携を深め、摂食・嚥下障害を有する利用者に可能な限り経口摂取ができるよう援助方法や食事環境、用具に工夫を凝らし個別性を重視して取り組んできた。また利用者の嗜好を把握するため食事チェック表を変更し、さらには口腔ケア研修を実施し職員の技術向上にも取り組み、利用者特性も徐々にであるが把握できるようになっている。今後もより長く食べることを楽しんで頂けるよう、継続していく。

(4) ケアプラン・機能訓練係

利用者が望む生活への実現と安全・安心・心地よい生活が送れるよう利用者担当職員と共に介護計画を検討してきた。また定期的に勉強会を開催し、介護支援専門員自らも能力の向上に努め、手順や記録の管理等、介護支援専門員が責任をもって実施してきた。今後も利用者の望む生活の実現を追求していく。

個別機能訓練計画においては利用者ニーズの多様化（身体の機能回復、運動療法等）により、日常生活を送る上で必要な訓練から離れてしまうことがあった。次年度は訓練内容を含め見直すと共に、加算算定についても検証していく。

(5) 安全環境係

事故予防対策の周知徹底を常に検討してきたが、同事故や職員の不注意による事故が繰り返されるケースが多々あった。係においても率先して予防に向けた取り組みがなされないため、係を含めた職員のスキルアップが急務である。

次年度はリスクカンファレンスなどを通して、職員全体で事故予防に対して取り組むと共に、外部等研修に積極的に参加していく。

(6) ボランティア係

様々なジャンルのボランティアの方々を募り、利用者の余暇活動を充実したものになるよう努めてきた。そして地域の催し物にも積極的に参加し、また小平市社会福祉協議会主催の会合に参加するなど地域との交流を図り、他施設との情報交換も行い、利用者に還元できるよう取り組んできた。今後は長く継続して頂ける活動を考えていきたい。

(7) 実習生係

係を中心に実習生への指導體制の下、関係機関との連携は図ってきた。実習生に対して職員が統一した指導を行い、介護の楽しさや、やりがいを見出すことも、実習生の記録から感じとることができた。

介護業界においては介護人材が不足する中、人材確保は非常に重要な課題である。次年度は技術以外に介護の楽しさ、やりがいを強調していきたい。

(8) 整理係

利用者の安全のためフロアや施設等の修理・補修を行い、快適で安全な環境づくりに取り組んできた。ただ職員一人ひとりが日常的に整理することを意識することは出来ず、職場環境が乱雑になることが多々見慣れた。次年度はきれいな職場を目指し“整理整頓”を意識させ、業務効率の向上を図っていきたい。

(9) サービスマナー係

利用者に適切なサービスが行き届くよう職員育成に力を入れてきた。不適切と思われる言動や行動から標語や研修内容を決め、常に利用者中心のケアを意識させてきた。また利用者の生活環境の整理やペースに合わせた個別ケアは、少しずつであるができてきている。次年度も援助者として相応しいスキル、コミュニケーション技術を高めていく。

5. 栄養、給食関係

給与栄養基準量と摂取量

給与栄養基準量	給与栄養量	
	基準量	摂取量
エネルギー (kcal)	1500	1503
たんぱく質 (g)	58.0	56.9
脂質 (g)	34.0	34.0
カルシウム (mg)	660	636
鉄 (mg)	6.2	8.3
レチノール当量 (μg)	679	689
ビタミンB1 (mg)	0.96	0.76
ビタミンB2 (mg)	1.14	1.04
ナイアシン (mg)	10.6	12.5
ビタミンC (mg)	100	94
食塩相当量 (g)	7.2 以下	7.0
食物繊維 (g)	17.4	13.5
炭水化物エネルギー比 (%)	64.0	64.5
脂肪エネルギー比 (%)	20.5	20.4
蛋白質エネルギー比 (%)	15.5	15.1

給与栄養基準量	基準栄養量に対する 給与摂取量の比率
エネルギー 1500 kcal	100%
タンパク質 58 g	98%
脂質 34 g	100%

(平成28年3月分)

行事食メニュー (平成27年度)

月	日	行事	献立
4	3	桜祭り	桜ご飯、清まし汁、揚げ鶏の柚子胡椒みぞれかけ、新じゃがの土佐煮、小松菜のごま和え
	7	お花見	ばら散らし、清まし汁、刺身、かぶの海老あん、和菓子
	8	赤飯の日	赤飯、味噌汁、きすの揚げだし、かぼちゃの甘辛煮、浅漬け
	12	郷土料理の日	～沖縄県～ クファージュシー、味噌汁、フーチャンプルー、かぼちゃの含め煮、黒糖ムース
	16	お楽しみ献立	ご飯、清まし汁、刺身、かぶのそぼろあん、菜の花サラダ
5	5	端午の節句	散らし寿司、清まし汁、炊き合せ、ブルーベリーソースプリン <間食> 柏もち
	10	母の日	鯛めし、清まし汁、茶巾盛り合わせ、しめじと青菜の和え物 <間食> チーズタルト
	14	お楽しみ献立	バターライス魚介のモルネソースかけ、コンソメスープ、カリフラワーのアボガドソース、苺レアチーズババロア
	18	赤飯の日	赤飯、清汁、鮭の照り焼き、炊き合わせ、青菜のごまよごし
6	10	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鱈の香味焼き、厚揚げと野菜のくず煮、浅漬け
	14	父の日	散らし寿司、清汁、なめこ豆腐、小松菜の生姜和え <間食> エクレア
	18	お楽しみ献立	ご飯、味噌汁、手作りコロッケ、炊き合わせ、オレンジ
	21	運動会	<お弁当> 太巻き、いなり寿司、から揚げ、えびフライ、マカロニグラタン、シューマイ、プチトマト、蓮根のきんぴら、紫いもようかん
	24	郷土料理	～福岡県～ かしわ飯、清まし汁、かれのいの明太マヨ焼き、がめ煮、漬物
7	3	郷土料理の日	～栃木県～ 五目飯、餃子スープ、たらの香蒸し、けんちん煮、苺ヨーグルト
	7	七夕	三色そうめん、天ぷら、豆腐の蟹あんかけ、抹茶ムース
	16	お楽しみ献立	祭り寿司、冷しそうめん汁、かに豆腐、柚子葛まんじゅう
	23	赤飯の日	赤飯、豚汁、かれのいのもと焼き、里芋の煮付け、海老と三つ葉のみぞれ和え
	24	土用丑の日	うな井、清汁、夏野菜の炊き合わせ、小海老の酢の物
8	13	お楽しみ献立	ご飯、清まし汁、鶏肉のくずたたき梅ソース、冬瓜の海老あん、クレープのフルーツ添え

	14	郷土料理の日	～山形県～ ご飯、味噌汁、枝豆入りハンバーグの甘辛煮、芋煮、だし
	15	終戦の日	さつま芋ご飯、すいとん、メバルの煮付け、角天の炊き合わせ、しその実和え
	20	ビアガーデン	やきそば、お好み焼、焼き鳥、もつ煮、ソフトクリーム、ビール、ジュース、流しそうめん
	28	赤飯の日	赤飯、味噌汁、銀だらの西京焼き、炊き合わせ、胡瓜の物
9	20	敬老の日	<松花堂弁当>赤飯、お吸い物（もみじ麩、三つ葉）前菜（青菜のきのこ和え、菊花と胡瓜の酢の物、蟹の重ね蒸し、厚焼き玉子、甘味（さつま芋の抹茶茶巾、）炊き合わせ（六角里芋、亀椎茸、鶴人参、南瓜、魚河岸揚げ、絹さや）、焼き物（鶏肉の野菜巻き）天ぷら抹茶塩添え（小なす、オクラ、海老）
	24	お楽しみ献立	五目散らし、きのこ汁、茄子の肉みそがけ、くずもちゼリー
	23	春分の日	釜めし、味噌汁、茄子の田楽、菊花和え（間）おはぎ
10	9	赤飯の日	赤飯、けんちん汁、鮭の幽庵焼き、炊き合わせ、酢の物
	14	郷土料理の日	～大分県～ ひじきご飯、味噌汁、とり天、筑前煮、酒まんじゅう
	16	お楽しみ献立	栗ご飯、花蒲鉾の清まし汁、鰯の西京焼き、炊き合わせ、かにカマと胡瓜の酢の物
11	3	赤飯の日	赤飯、清汁、鰯の粕漬け焼、かぶと鶏肉の煮込み、かに風味和え
	4	郷土料理の日	～京都府～ 大根菜飯、味噌汁、鮭の湯葉あんかけ、炊いたん、千枚漬け
	14	お楽しみ献立	豚たま丼、清汁、炊き合わせ、もずく酢
	17	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、豆腐の海老あん、ピーナッツ和え
12	10	郷土料理の日	～東京都～ 深川丼、清し汁、揚げ出豆腐、べったら漬
	17	お楽しみ献立	ターメリックライス、コンソメスープ、チキングラタン、パンプキンサラダ、生どら焼き
	20	年忘れ会	クリスマス弁当：太巻き、サラダ巻、サーモンの握り、チキンの照り焼き、海老とブロッコリーのフリッター、しゅうまい、さつま芋のツリーサラダ、浅漬け、一口ロールケーキ、コーンかき玉スープ
	24	クリスマス	洋風ピラフ、コンソメスープ、シーフードのクリーム煮、鴨と卵のサラダ、苺ムース
	25	もちつき	もち（大根おろし、きな粉、あんこ）、きのこ汁、豆腐の五目野菜あん、梅肉和え

	31	年越しそば	ご飯、うなぎの蒲焼き、炊き合わせ、果物（りんご）、一口年越しそば、
1	1	正月	赤飯、お吸い物、おせち料理 一の重：伊達巻、紅白蒲鉾、黒豆、数の子、栗きんとん、松竹梅羊羹、昆布巻 二の重：鯖の照り焼き、鶏の八幡巻き、紅白なます、海老の艶煮、サヨリの大根巻き 三の重：煮しめ（松大根、ねじり梅人参、紅白蕪のさつま揚げ 椎茸、穂先たけのこ、こんにゃく、六角里芋、ふき、絹さや
	2		お雑煮、鯖の西京焼、一口がんもの炊き合わせ、オクラの梅肉和え
	3		ねぎとろ井、野菜汁、揚げだし豆腐、京かぶらの千枚漬け
	7	七草粥	七草粥、厚焼き玉子、きんぴら蓮根
	11	郷土料理の日	～北海道～ ご飯、かしわぬき、鮭のチャンチャン焼き、かぼちゃしるこ、昆布和え
	16	赤飯	赤飯、清汁、白身魚のかぶら蒸し、茄子の肉みそがけ、菜の花のお浸し
2	3 (昼)	節分	恵方巻き、野菜汁、海老茶巾の炊き合せ、果物（いちご） ＜間食＞玉子ボーロ
	3 (夕)	節分	福ご飯、味噌汁、節分焼き、さつま芋のオレンジ煮、胡瓜とわかめの酢の物
	6	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鯖の立田揚げ、つみれと野菜の含め煮、ほうれん草の海苔和え
	19	郷土料理の日	～静岡～ 桜海老のかき揚げ井、味噌汁、あんかけ豆腐、黒糖まんじゅう
	26	握り寿司の日	握り寿司、かんぴょう巻き、清汁、かぶの柚子みそ、小松菜のピーナツ和え
3	3	桃の節句	江戸散らし、清汁、炊き合せ、菜の花の辛子和え ＜間食＞ さくら餅
	15	赤飯の日	赤飯、きのこ汁、赤魚の煮付け、ひき肉と春雨の炒め物、胡麻和え
	24	お楽しみ献立	鯛めし、清し汁、炊き合せ、浅漬け

短期入所生活介護 事業報告

運営概況

当事業所において、平成27年度の目標は「稼働率98%以上確保」と設定した結果、15%以上の減少となった。要因は様々考えられるが、大きな要因としては平成27年8月から利用負担金の増加が挙げられる。

年度当初は、地域に林立するサービス事業所の影響や特別養護老人ホームの入所編成により利用者数も伸びず、更に8月以降の利用者負担金の増加がサービスの利用控えの影響で、10月まで稼働率が上がらなかった。

また利用者ニーズの多様化と重介護者等が多くなったことで、苦情やトラブルに繋がるケースあり、利用中における利用者アセスメントや在宅生活に向けた支援体制に課題が残る結果となった。

次年度はショートステイ係を中心に、利用者のことを理解した支援体制の再構築と、多くの利用者ニーズに応えていけるよう、職員教育を含め、資質向上に努めていきたい。

以上のことを、今年度の報告としたい。

1、27年度月別利用実績

項目 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数 (件)	26	31	30	34	33	28	31	37	37	33	33	38	391
	34	35	32	37	36	35	37	38	37	38	33	29	421
延べ人数 (件)	183	177	179	197	192	163	188	236	231	252	246	249	2,493
	252	281	308	325	297	271	275	260	293	281	206	247	3,296
1日当たり (人)	6.1	5.7	6.0	6.4	6.2	5.4	6.1	7.9	7.5	8.1	8.5	8.0	6.8
	8.4	9.1	10.3	10.5	9.6	9.0	8.9	8.7	9.5	9.1	7.4	8.0	9.0
月平均稼働 率 (%)	76.3	71.4	74.6	79.4	77.4	67.9	75.8	98.3	93.1	101.6	106.0	100.4	85.1
	105.0	113.3	128.3	131.0	119.8	112.9	110.9	108.3	118.1	113.3	92.0	99.6	112.9

上段 = 27年度 下段 = 26年度

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男								0	0.0
	女								0	
	計								0	
65～74	男			2					2	7.9
	女				1				1	
	計			2	1				3	
75～84	男			1	1			2	4	34.2
	女			1	5	1	2		9	
	計			2	6	1	2	2	13	
85～94	男		1				1		2	52.6
	女		1	2	4	6	4	1	18	
	計		2	2	4	6	5	1	20	
95～	男				1				0	5.3
	女		1		1				2	
	計		1		1				2	
計	男	0	1	3	1	0	1	2	8	100
	女	0	2	3	11	7	6	1	30	
	計	0	3	6	12	7	7	3	38	

(平成28年3月分)

小川ホーム デイサービスセンター 事業報告

運営概況

今年度も継続し、職員が利用者の心を大切に、健全で安らかな生活を支えようという法人の考えに基づき接することができていたと実感している。デイサービスでは今後さらに、利用者主体であり、その人を知り、一人ひとりの目的に合った活動やケアができるような取り組みを行って行くことが今後の課題である。

より良いサービスを提供していく為のサービス提供体制の強化の面では、今年度に介護福祉士資格を職員1名が取得し、介護福祉士有資格者は職員19名のうち9名となった。今後も介護福祉士取得を促し、サービスの向上につなげて行くことができるような事業所を目指したいと考えている。

稼働率の面では、稼働は、年度平均26.6人で、各四半期の参加者平均は下記のようになった。

4月～ 6月	24.73人
7月～ 9月	26.14人
10月～12月	27.98人
1月～ 3月	27.53人

趣味活動は、刺し子、糸刺繍、木目込み、押絵、パウダーアート、カラオケ、卓球等を行った。個別活動が難しい方は、数人でゲームを行い過ごしていただいている。また、ボランティアとして提供して頂いた団体や有志の皆様による内容や活動として、書道、ハーモニカ、声楽クラブ、アコーディオン、大正琴、マジック、アロママッサージ等の発表や活動を実施していただくことができた。

小川ホームデイサービスでは、車いすの方ができる限りイスへの移乗ができるように促し、安定した座位姿勢を構築できるように援助している。移動では歩行器を活用し、ご自身で歩いて頂く促しを行っている。介護が必要になっても、ご本人のニーズを大切に、なるべく今まで同様の生活を続けることができるような働きかけを行っている。

優良なサービス展開の必要性から、職員間のコミュニケーションの場として、業務連絡会を開催し、「日頃のご利用者に対するケア方法や接し方」「移乗などのミニ研修会」や業務改善事項の話し合いを行っている。

一方、重度利用者の利用のご依頼が増え、実際に中重度者のご利用も増えてきており、もう一方では、要支援者の方の依頼も増えている。バランス良く地域ニーズに応えていく考えから、可能な範囲で利用開始をして頂いている。

年度初めから準備の上、介護記録ソフトとタブレット型端末機を導入し、記録時間の短縮、帳票類の管理、計画書の管理の効率化が図れるようになった。しかし、過去の記録が追いつく、連続した経過が把握しにくい、バイタルも過去の数値を確認するのに時間がかかるなどの問題点も見えてきている。

1、月別実績

	内容/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加数	予防	111	110	94	107	116	119	114	108	112	111	110	115	1,327
	介護	535	519	560	595	565	563	616	609	565	547	597	611	6,882
	計	646	629	654	702	681	682	730	717	677	658	707	726	8,209
	(26年度計)	679	704	656	678	643	663	662	632	579	555	559	643	7,653
新規	予防	0	1	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	5
	介護	3	3	8	1	0	0	5	1	0	1	2	1	25
	計	3	4	8	2	2	1	5	1	0	1	2	1	30
廃止	予防	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	5
	介護	3	4	2	2	1	1	3	1	0	4	3	4	28
	計	3	5	3	2	1	1	3	1	1	4	3	6	33
予防	運動機能向上	28	25	13	16	16	13	14	11	16	12	12	12	188
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	19	12	11	21	15	14	14	11	16	12	12	12	169
介護	機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	188	182	174	192	204	202	218	203	197	169	201	188	2,318
	入浴(機械)	91	95	108	102	98	93	102	95	98	111	103	110	1,206

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男								0	0.0
	女								0	
	計								0	
65～74	男			1					1	9.2
	女		1	1	3		1	1	7	
	計		1	2	3		1	1	8	
75～84	男	1	1	1	1	1			5	39.1
	女	3	5	7	8	2	2	2	29	
	計	4	6	8	9	3	2	2	34	

85～ 89	男		1	3		1			5	24.1
	女	1	2	4	4	2	1	2	16	
	計	1	3	7	4	3	1	2	21	
90～	男		1						1	27.6
	女		5	7	7	2	1	1	23	
	計		6	7	7	2	1	1	24	
計	男	1	3	5	1	2	0	0	12	100
	女	4	13	19	22	6	5	6	75	
	計	5	16	24	23	8	5	6	87	

(平成28年3月)分)

3、移動方法別利用者数

移動方法		男	女	計
歩行	自力	11	52	63
	介助	2	12	14
車椅子	自力	0	3	3
	介助	0	7	7
計		13	74	87

4、地域別利用者数

地域名	男	女	計
小川町1	0	4	4
小川町2	0	0	0
小川西町	8	35	43
小川東町	2	17	19
栄町	1	0	1
上水本町	0	0	0
学園西町	0	4	4
学園東町	0	0	0
仲町	0	1	1
津田町	2	7	9
たかの台	0	1	1
東村山	0	4	4
東大和	0	1	1
計	13	74	87

行事

行事名	春の外出行事
日程	6 / 3 ~ 7 月中
場所	① 青梅 ② イトーヨーカドー ③ 食事
参加人数	96 名
行事名	縁日横丁(暑気払い)
日程	8 / 3 ~ 8 (すいか割り) 8 / 17 ~ 22 (縁日横丁/かき氷)
場所	活動室
参加人数	109 名 (延べ)
行事名	夏祭り(ビアガーデン)
日程	8 / 20
場所	小川ホーム屋上
参加人数	利用者 25 名 家族 15 名
行事名	やすらぎコンサート Sana
日程	9 / 21
場所	活動室
参加人数	40 名
行事名	秋の外出行事
日程	10 / 6 ~ 12 月頃
場所	① 外出 ② 青梅 ③ 買い物 (イトーヨーカドー)
参加人数	87 名
行事名	忘年会
日程	12 / 21 ~ 26
場所	小川ホーム活動室
参加人数	107 名 (延べ)
行事名	初詣
日程	1 / 4 ~ 9
場所	小平神明宮
参加人数	83 名
行事名	作品展示会
日程	3 / 28 ~ 4 / 9
場所	活動室内
参加人数	87 名 (利用者全員・希望家族)

小川ホーム ホームヘルプサービス 事業報告

運営概況

平成27年度は新規利用者42名の依頼を受け、現在約130名の利用者宅に24名のヘルパーを派遣しているが、非常勤ヘルパーの入院や怪我、退職等もあり年間を通すと慢性的な人材不足に課題が生じてしまい、今年度の事業目標である稼働時間（1600時間）は目標達成できなかった。

最新の「福祉人材センター・バンク職業紹介所実績報告」によると、ホームヘルパーの有効求人倍率は1.9倍、これは1.9社で1人の職員を取り合っていることを意味することとなる。このようにヘルパーの募集をしても応募が少ないどころか、数か月間まったく応募が来ない状況で、現状を打開するためには、ヘルパーの人材確保に効果的な求人方法を検討していく必要性を強く感じている。

近年利用者の重度化や家族の高齢化も進み、それに伴い、現在では毎月11～12名の方がショートステイを定期的に利用されるようになった。一方では入院される利用者も増えて行く中で、退院が長引き、退院できても自宅には戻らずに施設を探されるケースも増えてきている。それとは対照的に癌末期で積極的な治療を望まず、入院をしないで、最期まで自宅で過ごしたいと希望されるケースも増えてきた為、終末期の看取りについての研修も実施した。また、増加してきている認知症への理解を深めるための研修にも取り組み、定期的に研修を実施している。

平成27年3月より小平市の日常生活支援総合事業の導入が始まり、来年の3月までには順次新たな要介護認定を以て要支援1・2の判定を受けた方と、総合事業対象者となった利用者は、地域支援事業へと移行される。今後ますます多様化する生活支援サービスに対応できるよう、より良い体制を作り、ホームヘルプサービスの安定供給と、総合事業のスムーズな導入が行えるよう努めて参りたい。

1、月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	127	128	123	126	128	133	135
延べ人数	1,261	1,249	1,293	1,398	1,347	1,404	1,548
1日当り	42.0	40.3	43.1	45.1	43.5	46.8	49.9
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※26年度
件数	133	127	126	127	125	1,538	1,567
延べ人数	1,511	1,510	1,383	1,395	1,430	16,729	17,774
1日当り	50.4	48.7	44.6	48.1	46.1	45.7	48.7

2、要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計	構成比%
～64	男									0.0
	女									
	計									
65～74	男	1		4					5	12.8
	女	2	4	1	1		1	2	11	
	計	3	4	5	1		1	2	16	
75～84	男	1	3	3	3				10	44.0
	女	10	17	5	7	1	3	2	45	
	計	11	20	8	10	1	3	2	55	
85～89	男	1	2	2	2	1	1	1	10	24.0
	女	3	6	5	3	2		1	20	
	計	4	8	7	5	3	1	2	30	
90～	男		2	1					3	19.2
	女	1	9	4	4	1		2	21	
	計	1	11	5	4	1		2	24	
計	男	3	7	10	5	1	1	1	28	100
	女	16	36	15	15	4	4	7	97	
	計	19	43	25	20	5	5	8	125	

(平成28年3月分)

3、地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	28	96	124
他市	0	1	1
計	28	97	125

(平成28年3月分)

4、サービス内容別実績

サービス内容		件数	延人数	サービス 時間 (時間)
予防訪問介護Ⅰ	週 1 回 1 回 1 時間程度	38	163	175.6
予防訪問介護Ⅱ	週 2 回 1 回 1 時間程度	18	144	136.8
予防訪問介護Ⅲ	週 3 回以上 1 回 1 時間程度	5	65	69.8
訪問型サービスⅠ	週 1 回 1 回 1 時間程度	3	15	15.6
身体介護 1	30分未満	17	216	104.8
身体介護 2	30分以上1時間未満	20	168	163.9
身体介護 3	1時間以上1時間30分未満	3	33	48.5
身体介護 4	1時間30分以上2時間未満	0	0	0.0
身体1生活1	30分以上1時間未満	9	77	75.9
身体1生活2	1時間以上1時間30分未満	4	19	26.8
身体1生活3	1時間30分以上2時間未満	0	0	0.0
身体2生活1	1時間以上1時間30分未満	2	9	12.5
身体2生活2	1時間30分以上2時間未満	1	1	2.0
身体2生活3	2時間以上2時間30分未満	0	0	0.0
身体3生活1	1時間30分以上2時間未満	1	8	15.8
身体3生活2	2時間以上2時間30分未満	0	0	0.0
身体3生活3	2時間30分以上3時間未満	0	0	0.0
身体1夜	30分未満	2	13	6.3
身体2夜	30分以上1時間未満	1	4	3.9
身体1生活1夜	30分以上1時間未満	1	8	7.8
生活援助 2	30分以上1時間未満	18	129	77.8
生活援助 3	1時間以上1時間30分未満	34	344	349.8
生活援助2夜	30分以上1時間未満	0	0	0.0
生活援助3夜	1時間以上1時間30分未満	1	9	8.8
合 計		178	1,425	1,302.4

(平成28年3月分)

小川ホーム 介護計画センター 事業報告

運営概況

平成27年度の利用者状況は、ケアマネジャー一人当たり常勤で35～40人、1ヶ月あたり210～220人のケアプランを作成し、そのうち、要介護3～5の中重度の利用者は約3割、認知症の診断を受けている利用者及び、何らかの認知症の症状によって生活に支障がある利用者は半数を超えている。事業目標の『認知症高齢者と中重度の要介護者が安心して生活できる地域での役割を担う』という目標を達成できたと考えている。

件数としては平成26年度と大きくは変わらないが、利用者の高齢化や重度化に伴い、病院・老人保健施設などへの入院・入所や退院・退所など動きの多い状況の下での担当件数となっている。医療との連携のため、担当利用者の入院時には介護情報提供書の送付や病院から要請されての介護連携のための面会の他、退院時には病院カンファレンスへの参加が多々あり、利用者が不安なく入院や退院ができるための連携を図っている。

本年度は介護保険制度の改正により、平成27年8月から65歳以上で一定以上の所得のある方の利用者負担が、1割から2割になる負担増の見直しがなされ、サービスの利用を減らすなどして、利用を控える利用者も若干いたため、事業所との調整が必要となった。

あわせて、ショートステイ等介護保険施設系サービスの利用をする方の食費・居室料についても、一定以上の預貯金等の資産を持っている方は、所得が少なくても負担軽減が受けられなくなった。ショートステイの利用を控える方が予想よりも多く、家族の介護負担が心配される状況もあった。

研修については、小平市ケアプラン指導研修が行われ、当事業所から2名の主任介護支援専門員が参加し指導的役割を担い、研修受講者として2名のケアマネジャーが参加した。新たなアセスメントの視点やケアマネジメント力の向上について学ぶ機会となった。

また、小平市内のケアマネジャーの横のつながりや専門職としての技能を研鑽し合うことを目的とする「小平ケアマネ連絡会」の研修に年間を通して3名が参加し、学んだ内容を事業所内研修として展開し、ケアマネジメントの質の向上に努めた。

1. ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	209	217	218	220	223	228	233
内受託	1	1	1	1	2	2	2
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※26年度
件数	231	225	221	223	218	2,666	2,566
内受託	2	2	2	2	2	20	21

2. 要介護度別分類

年齢	性	支援 1	支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
～59	男								0
	女						1		1
	計						1		1
60～64	男								0
	女			1	1				2
	計			1	1				2
65～69	男			2	1				3
	女			2	4	1	2		9
	計			4	5	1	2		12
70～74	男			2	3				5
	女			3	2		2	3	10
	計			5	5		2	3	15
75～79	男			1	5	2	1		9
	女			3	2	5	7	1	18
	計			4	7	7	8	1	27
80～84	男		1	7	7	4	1	3	23
	女			14	8	2	3	1	28
	計		1	21	15	6	4	4	51
85～89	男			7	6	2	2	1	18
	女			18	6	5	5	4	38
	計			25	12	7	7	5	56
90～	男			1	2	2	1		6
	女		1	15	15	9	4	4	48
	計		1	16	17	11	5	4	54
合計	男	0	1	20	24	10	5	4	64
	女	0	1	56	38	22	24	13	154
	計	0	2	76	62	32	29	17	218

(平成 28 年 3 月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	64	153	217
東村山市	0	1	1
計	64	154	218

(平成 28 年 3 月分)

小平市 地域包括支援センター 小川ホーム 事業報告

運営概況

今年度は第6期の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成27年度～29年度）現、地域包括ケア推進計画の策定年度にあっていた。

介護保険の制度改正においては、予防給付（訪問介護・通所介護）の介護予防日常生活支援事業への移行が3月より開始された。その準備のため、研究会や勉強会への参加も多く、良い制度、小平モデルを作るために、他の包括支援センターや行政とも話し合いを重ねてきた。一からの事業であり、流れや詳細の把握が困難であり、戸惑いや苦労が多かった。又、今年度は下期より月1回の認知症サロン（オレンジカフェ）を開始し、地域の認知症の方やご家族の交流や居場所作りに努めた。一緒に体操や物作りを楽しく行い軌道にのっている。

見守りボランティア事業においても、今年度から、小川地区と津田地区とで月に1回のペースで、見守りボランティアの交流をしてきた。

成果も徐々に表れてきて、人数も62人もの方が登録していただいた。町名ごとに分かれて町歩きや、地図作りをして自分たちの町の事を知る事で交流を図ってきた。この事を通して、地域の見守り隊としての役割を果たそうとしている。

総合相談においては、月に約40件弱で推移しており、特に、認知症や精神疾患や虐待の相談が増えてきている。どれも、すぐに解決できる問題ではなく、行政や各関係機関との連携を軸に進めている。困難ケースにおいては、地域ケア会議を開きケアマネジャーとの連携も行っている。

三職種（主任介護支援専門員・社会福祉士・看護師）の部会においても、話し合いを重ね、それぞれが専門職としての役割を担えるような形が取れてきている。

主任ケアマネ部会では、ケアプラン研修や主任介護支援専門員連絡会の立ち上げにより居宅支援事業所の主任ケアマネの支援や東京都が示している、給付適正化事業（ケアプラン点検）についても、包括、居宅の主任ケアマネが協力して行えた。

看護師部会では、前段にもあげた、認知症サロンの軌道にのせ、認知症サポーター養成講座を定期的に行えるような計画作りやサポーターのフォローアップ研修を行なった。

社会福祉士部会では、高齢者虐待対応マニュアルを作り、小平市として対応するべきルート作りや対応方法を確認するツールを作り、研修会の開催をした。又小平市の社会資源や圏域の把握ができる社会資源シートの作成を行った。

総合事業におけるサービスは準備段階である。みなし事業所から出発をしていく事になっている。

今後、包括支援センターの圏域の社会資源の把握をし地域診断していきながら、圏域における新しい事業展開にもつなげていく事が出来るようにする事が重要である。

来年度は本格的に総合事業も始まり、ますます多忙になる事が予測される。その中で地域包括支援センターの機能強化として、職員の増員を図り、地域包括ケアシステム小平版を、行政や基幹型包括と共に作り上げていきたい。

1、 ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	361	373	374	377	368	374	376
内委託	61	63	64	65	65	67	66
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※26年度
件数	387	391	390	385	385	4,541	4,342
内委託	72	73	72	72	68	808	836

2、 要介護度分類

	～59歳		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
支援1	1	1			2	4	4	6	4	15	8	43	9	28	4	11	32	108	140
支援2	1	1	3	2	1	5	9	5	9	28	17	62	19	47	13	23	72	173	245
合計	2	2	3	2	3	9	13	11	13	43	25	105	28	75	17	34	104	281	385

平成28年3月31日現在

3、 相談実績

相談件数 (件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
	当月相談者数	163	167	217	147	135	191	189	146	161	189	119	217	2040	
	当月内訳	新規相談者	46	48	44	38	33	28	34	32	39	35	39	36	452
		継続相談者	117	119	173	109	102	163	155	113	122	154	80	181	1588
相談内訳	自立支援サービス	ヘルプサービス	2	0	0	3	3	1	2	0	0	0	0	0	11
		給食サービス	6	2	0	2	4	1	4	1	1	0	0	0	21
		住宅改修	2	3	1	1	2	0	2	0	1	1	0	0	13
		福祉用具	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	5
		緊急通報・火災安全システム	0	3	2	0	0	1	2	1	0	0	0	1	10
		おむつ支給等事業	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		高齢者見守り事業	23	30	24	18	26	20	20	19	18	16	19	23	256

相談内訳	その他の自立支援サービス	0	1	0	2	1	0	1	1	4	0	0	2	12
	介護保険													
	施設サービス	8	9	7	4	6	10	13	9	9	12	9	4	100
	在宅サービス	105	72	82	55	41	47	75	86	51	93	53	64	824
	地域密着サービス	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	5
	申請等の相談	46	46	32	36	30	35	42	34	41	63	37	36	478
	介護予防・生活支援													
	訪問型サービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通所型サービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	23
	介護予防事業													
	二次予防事業	4	4	43	0	5	67	1	8	41	1	14	0	188
	一次予防事業	3	0	1	1	3	2	0	0	0	0	5	0	15
	権利擁護													
	地域福祉権利擁護	0	0	5	1	1	0	2	0	2	1	0	1	13
	成年後見	1	1	3	0	0	1	2	2	1	2	1	3	17
	高齢者虐待	11	8	11	2	4	0	3	3	2	3	1	3	51
	消費者相談	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	6
	その他													
	苦情	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
	安否確認・緊急対応	7	0	3	3	7	4	0	2	2	7	0	6	41
ケアマネ・ケアプランの相談	24	12	12	4	5	11	8	10	9	12	8	9	124	
医療関係	25	13	14	8	19	10	18	16	10	21	19	23	196	
近隣住民に関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
他制度の相談	2	2	0	0	2	1	3	1	1	1	1	3	17	
上記以外の相談	11	0	0	5	3	6	1	1	0	0	0	1	28	

相談件数（件）			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
予防給付	要支援1	予防ケアプラン作成	107	113	118	118	112	109	111	117	118	124	121	120	1388
		予防ケアプラン作成委託	16	24	21	21	23	24	19	21	22	22	22	18	253
		ケアプラン作成委託事業者数（3月31日現在の数）	16	20	18	20	19	20	17	20	15	23	22	17	18.9
	要支援2	予防ケアプラン作成	194	196	191	192	187	195	197	195	196	193	189	197	2322
		予防ケアプラン作成委託	45	38	43	43	41	41	47	48	50	46	49	52	543
		ケアプラン作成委託事業者数（3月31日現在の数）	30	32	31	29	32	32	35	35	27	34	37	38	32.6
介護保険申請件数			59	69	90	58	58	49	75	40	57	85	70	56	766
事業対象者 基本チェックリスト実施			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	23
実態把握に関する対応			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マネジメン ト事業	包括的・継続的ケア	ケアプラン作成指導・個別指導・相談	7	2	0	6	0	0	1	0	2	2	4	0	24
		困難事例への指導助言	6	2	3	4	4	2	2	11	0	1	2	1	38
		サービス担当者会議・ケース会議	2	0	0	8	1	3	0	2	2	3	3	0	24
地域ケア会議	地域ケア会議 ＜個別ケース検討＞		1	3	2	4	0	2	0	3	2	3	6	0	26
	地域ケア会議 ＜地域課題検討＞		0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3

この事業報告書は原本と相違ないことを証明します。

平成28年5月27日

東京都小平市小川西町2-35-2
社会福祉法人緑友会
理事長 菅野 徹夫